

MANTIE DIAOCHA BAOGAO

遼寧省檔案館 編

滿鐵調查報告

第四輯

25

GUANGXI NORMAL UNIVERSITY PRESS
广西师范大学出版社



滿鐵調查報告

MANTIE DIAOCHA BAOGAO

第四輯

25

遼寧省檔案館 編

GUANGXI NORMAL UNIVERSITY PRESS
· 桂林 ·
广西师范大学出版社



上海滿鐵調查資料第一編 國民革命的現狀之二 國民政府

滿鐵上海事務所 一九二七年五月 1

一九二八年滿洲政治經濟事情

滿鐵庶務部調查課 一九二九年六月 305



上海滿鐵調查資料第一編

國民革命的現狀之二 國民政府

秘

上海滿鐵調查資料第一編

(以印刷代謄寫)

國民革命の現勢 其二 國民政府

南滿洲鐵道株式會社

上海事務所

凡 例

- 一、本稿は「國民革命の現勢」研究の一部として、主として國民政府の現狀に就いて説いたもので、既刊「國民革命軍」及び續いて執筆中なる「國民黨」「社會運動」と共に相併せて一つの纏まつた資料たらしめんことを期した。
- 二、南方革命派の中心勢力は長江への進出が成功に近づくや、その指導精神に動搖を來し、革命勢力構成の根本に遡つて二元的存在の矛盾を暴露し、武漢と南京とに分れて相對峙し、支那の内亂狀態に一新生面を拓いてゐる。
- 最近兩派と殆んど言ひ合はしたかやうに北伐の旗鼓を進め、今後形勢は如何に變化するか容易に逆睹しがたい。
- 三、國民政府に就ては從來發表せられたる研究が殆んどないやうに思はれる。筆者は蒐集せる幾多の資料と事實とを基礎とし、併せて接觸せる國民黨の人々との感想を綜合し、能く限り基礎的資料を提供するに努めた。
- 四、編修方針としては、國民黨分裂以前に於ける政策及び方針、規定等を主としたが、其後武漢、南京兩政府が各其獨特の立場から改變を加へたものに對しても、併せて附記した。
- 五、筆者は當所員高久肇である。

昭和二年五月二十日

上海事務

凡 例



國民革命の現勢

其二 國民政府

目次

第一節 總 說	一
第二節 國民政府	一〇
第一項 武漢政府	一〇
第二項 南京新政府	二〇
第三節 地方官制	三一
第一項 概 說	三一
第二項 軍政期の地方行政	三三
第三項 民政期の地方行政	三八
目次	一

目次

二

第四節	國民政府官吏	六五
-----	--------	----

第一項	政務機關と黨員	六五
-----	---------	----

第二項	國民政府官吏と待遇	七〇
-----	-----------	----

第五節	國民政府財政	七三
-----	--------	----

第一項	概説	七三
-----	----	----

第二項	財政及税制政策	七六
-----	---------	----

第三項	銀行紙幣及公債	一〇三
-----	---------	-----

第六節	各省財政	一〇七
-----	------	-----

第一項	廣東省財政	一〇七
-----	-------	-----

第二項	湖南省財政	一三五
-----	-------	-----

第三項	湖北省財政	一四二
-----	-------	-----

第四項	江西省財政	一五七
-----	-------	-----

第五項	福建省財政	一六六
-----	-------	-----

第六項	浙江省財政……………	一七一
-----	------------	-----

第七項	江蘇省財政……………	一七五
-----	------------	-----

第七節	外 交……………	一七九
-----	----------	-----

第一項	國民革命と外交……………	一七九
-----	--------------	-----

第二項	國民政府と英國……………	一八三
-----	--------------	-----

第三項	國民政府と日本……………	二〇四
-----	--------------	-----

第四項	南京事件と對支共同通牒……………	二一〇
-----	------------------	-----

第五項	戰時外交策略……………	二一四
-----	-------------	-----

第六項	支那問題を中心とする英露關係……………	二三〇
-----	---------------------	-----

第八節	司 法……………	二三六
-----	----------	-----

第一項	司法の革命化……………	二三六
-----	-------------	-----

第二項	國民政府司法制度……………	二三九
-----	---------------	-----

第三項	革命と新法制……………	二五八
-----	-------------	-----

目 次

三

目次

四

第四項 反革命制裁及革命裁判……………二四三

第五項 南京政府司法制度……………二四三

第九節 交通……………二四九

第一項 鐵道……………二四九

第二項 郵政……………二五〇

第三項 電政……………二五六

第四項 航政……………二五七

第五項 無線電信……………二五八

第十節 教育……………二五九

第一項 教育と革命……………二五九

第二項 教育行政……………二六三

第三項 教育制度……………二六四

第十一節 結論……………二六九

附 錄

其一 國民革命日誌

其二 國民黨武漢派組織一覽

其三 國民黨南京派組織一覽

目 次

五

國民革命の現勢

其二 國民政府

第一節 總說

中華民國國民政府は、「以黨治國」を標榜する中國國民黨を基礎とするものである。即ち孫文が國民政府建國大綱に「國民政府は本革命の三民主義及五權憲法を以て中華民國を建設す」と宣明せるそれであつて、従つて政府と黨とは異體同身の關係にある。

國民政府は大約左の四大機關によりて構成される

一、國民政府委員會

審議機關とも云ふべきものにして、民國十四年七月一日、國民黨中央執行委員會にて制定された中華民國國民政府組織法により廣東に設立さる。民國十六年三月十日、漢口に於ける國民黨中央執行委員會第三次全體會議に依り漢口に移りしが南京國民黨側之を認むるに至らず。

外 交 部	行政機關とも云ふべきもの、民國十四年七月一日國民黨中央執行委員會にて制定されたる中華民國國民政府組織法により設立さる。本年一月一日廣東より武漢に移る。南京國民黨は之を違法とし、別に南京に國民政府を置き、外交、財政、交通の三部を設く。
財 政 部	
法 部	

勞工部 農政部 教育部 實業部 衛生部
民國十六年三月十三日漢口に於ける國民黨中央執行委員會第三次全體會議により増設さる。南京國民黨側は之を認めず。

軍事委員會 教育行政委員會 豫算委員會 國務委員會 購料委員會 僑務委員會 條約委員會
民國十六年三月十日國民黨中央執行委員會第三次全體會議に依り中央執行委員會の直轄に移さる。
本委員會は政府に屬するもののみを掲ぐ、別に黨の委員會あれ國民黨の籍に讓る

三、特別委員會

四、特別機關

監察院 懲吏院 鹽運使署 海關監督署 禁烟監督署
國民政府が廣東に在りたる當時には此外に大理院、總檢察廳等の諸機關ありたるも爾後撤廢す、而して上記の監察院、懲吏院等も現行規定上は存在することとなり居れども未だ實設を見ず

右中華民國國民政府組織法及國民政府委員會會議規則左の如し

▲中華民國國民政府組織法(民國十四年七月一日公布)

第一條 國民政府は中國國民黨の指導及監督を受け全國政務を掌理す

第二條 國民政府は委員若干人を以て組織し并に委員中の一人を推定して主席となす

第三條 國民政府は常務委員五人を設け日常政務を處理す、常務委員は委員中より之を推す

第四條 法令公布及其他國務に關する文書は主席及主管部長署名し其各部に屬せざるものは常務委員多數署名し國民政府の名義を以て之を行ふ

第五條 國務は委員會により執行す、委員會出席委員半數に満たざる時は常務委員之を行ふ

國民政府委員會は國民政府所在地にて行ふ

第六條 國民政府に軍事外交財政各部を設け、各部は部長一人を設け委員之を兼任す、部増加の必要ある時は委員會の決議を経て之を執行すへし

第七條 各部には其職權に依り部令を發す

第八條 國民政府所屬各機關官制は別に之を定む

第九條 國民政府は秘書處を設け常務委員の指揮を受く、其規制は別に之を定む

第十條 本法は公布の日より施行す

國民革命の現勢

四

▲國民政府委員會會議規則（民國十四年七月一日公布）

第一章 開會及延會

第一條 本委員會は毎週二回開會す、但し特別事由に因り主席より臨時に召集開會することを得、常務委員會は毎日一回開會す

第二條 本委員會は國民政府所在地委員總額の過半数の出席を俟つて方に開議し得べし

第三條 本委員會開會に當り主席は總理の遺囑を恭讀後開議を宣告すへし、會議中委員退席の必要あれば主席の許可を得へし

第四條 主席開議を宣告せざる以前或は散會及延會を宣告したる後議事に就き發言するを得す

第五條 議事未だ完了して散會時間遅れたる場合主席は時間延長を宣告するを得

第二章 議事及議事日程

第六條 毎會議の注重事項左の如し

一、國內情形の報告、討論及現在政府應取の政策

二、政府外交に關し探るべき行動

三、省政府の報告及其建議

四、各省の報告及現在政府の探るべき政策

五、軍事委員會の報告及其建議

六、國民政府各部の報告及其建議

第七條 委員會議事件及開會日時は記事日程に記載すへし

第八條 議事日程記載方法は第六條の順序とし秘書長之を制定す

第九條 何項の提議を論せず必ず開會前編入議事日程を提出すへし、若し日程決定後建議を要する者あらは主席は

委員多数の同意を得て提出前之を討論すへし

第十條 議事日程記載事件にして開議する能はさるか或は議して完結せざる者は主席議事日程を改定することを
得

第十一條 議事日程記載各項議案は先づ印刷して委員に分送すへし

第三章 時間及討論

第十二條 委員會は毎週火金兩日午後八時半開會す、常務委員會は毎日午前九時開會す、會議に當り委員無届にて
時間迄に出席せざる場合は缺席と見做す

第十三條 開議時間は三時間半以内とす

第十四條 會議は一事項に對し三十分以内とす

第十五條 討論は席次の先後により發言す

第一節 總 說